

令和6年（2024年）7月12日

令和7年度に社会共創デジタル学環を設置 ～総合知の実践で地域社会にイノベーションを生み出す～

【本件のポイント】

- 令和7年4月、課題解決型実践人材を育成するために、新たな学部相当の教育組織として「社会共創デジタル学環」を設置する。
- 課題解決型実践人材に必要な「マネジメント力」、「デジタル利活用力」、そして「学際的思考力」を身に付けることが社会共創デジタル学環の教育の特色である。

社会共創デジタル学環

School of Collaborative Regional Innovation and Data Science

総合知の実践で

地域社会にイノベーションを生み出す

【概要】

人口減少や高齢化が進展する地域社会では、過疎化や産業の衰退など様々な地域課題に直面している。そうした地域課題を解決していくには、課題を俯瞰して思考できる文系・理系の総合知を持ち、デジタルを活用して課題を分析し、多様な人々と協働してその解決策を創造できる人材が必要である。

このような背景のもと山形大学では、多様な人々と協働して地域課題の解決策を企画・実施できる「マネジメント力」とデジタルを活用して的確に課題を分析し、新たな価値を創造できる「デジタル利活用力」、そして文系・理系の学問分野を横断する学際的な専門知識と論理的思考力（学際的思考力）を身に付けた課題解決型の実践人材を育成するため、新たな学部相当の教育組織（学部等連係課程）として「社会共創デジタル学環」を令和7年4月に設置する。

【教育の特色】

- ・学際的な専門知識と論理的思考力（学際的思考力）、地域の特性やニーズを捉えるデジタル利活用力、そしてビジネス・アントレプレナーシップの視点で多様な人々と協働できるマネジメント力を用いて、地域課題の解決に貢献できる実践的能力を身に付ける「文理横断の学び」。
- ・山形大学に設置されているアントレプレナーシップ教育研究センターやデータサイエンス教育研究推進センター、加えて山形県全市町村及び主要経済団体等が参加するやまがた社会共創プラットフォームの協力による「教育支援体制」。
- ・学生の主体性や挑戦する姿勢を尊重し、多様な地域課題に対して柔軟な研究テーマを設定するとともに、文系・理系の学問分野に跨る、専門性の異なる複数の教員が助言・指導する「マルチメンター制度」。

【カリキュラム】

カリキュラムは以下の科目から構成される。

- ・豊かな人間性と社会性、文理を横断する幅広い教養と汎用技能等を修得する「基盤共通教育科目」。
- ・デジタル利活用及びマネジメントの理論を修得する「共創理論科目」。
- ・共創理論科目で修得した理論を実践するための基礎スキルや行動・思考力を修得する「共創実践科目」。
- ・連係協力学部の専門教育科目により学際的思考力を修得する「共創専門科目」「共創展開科目」。

※学部等連係課程は、既存の学部等の教育資源を活用した分野横断的な学位プログラムである。大学における教育研究上の基本組織である「学部」に相当する組織である。

お問い合わせ

企画・戦略室長 内藤

TEL 023-628-4190 メール yu-kikair@jm.kj.yamagata-u.ac.jp